教育の充実と文化・スポーツ活動の振興

村民の一人ひとりが生涯の各時期において、必要、適切な教育が受けられ、個性や能力を十分に発揮できるよう諸条件の整備充実を図る必要があります。

学校教育環境の充実

人間性豊かな児童生徒の育成を目指し、教職員の適正配置にあたった結果、岩室中学校においては教員の一名増を確保することができました。これにより教育内容、方法の改善、生徒指導の充実をさらに図ります。また和納小学校は普通学級が一学級減りますが、幸い特殊学級（情緒学級）が新設されることになり、学級数の減少はおさえることができました。

一方、学校施設整備については、緊急を要するものから計画的に実施するほか、教材用備品、一般備品の充実を進め、教育の一層の向上を図ります。

青少年の健全育成

青少年の健全な育成を図るため、学校、家庭、地域住民及び関係機関が一体となって非行防止、児童生徒指導体制の一層の充実に努めます。

また青少年の活力を高めるとともに、積極的な地域社会参加を促進し、健全育成に努めるため、青年県外研修派遣事業をはじめ、中学生宿泊研修、青少年団体リーダー研修会への参加や青年団、地域子ども会などに助成します。

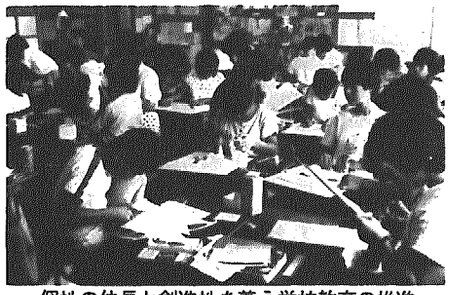
村民文化の向上と社会教育の振興

生涯教育の充実を図るため学習機会の充実、社会教育推進体制の整備充実を関係機関等との相互連携、協力のもとに実施します。特に生涯教育の推進については、基本構想をもとに研究集会、講座等を実施し、生涯教育研究報告書の策定に着手します。また今年から三年間、県から派遣社会教育主事（一人）の配置を受けることにより、社会教育全般における充実を図ります。

公民館図書の充実については、百二十万円の図書購入費を計上、計画的な整備を図り、夜九時までの図書室の開放とともに皆さんの読書ニーズに応えます。

スポーツの振興については、村民体育祭の開催や各種大会を積極的に進める一方、好評の丸小山運動広場は、身近な憩いの場の機能と手軽にスポーツを家族ぐるみで楽しめるよう、さらに整備充実を図ります。

併せて学校体育施設や村民体育館、ゲートボール場の一般開放などによる、スポーツの向上と底辺の拡大を図ります。


個性の伸長と創造性を養う学校教育の推進

高生産農業の展開と林業・水産の振興

本村農政の基本目標である「生産性の高い農林水産業を築き、豊かで美しく住みよい村を実現する」ための施策を積極的に推進します。

そのため、総合食糧供給基地としての地位確立と農林漁家の経営安定を図ることを基本とし、農林水産業の生産体制と生活環境を整備するための諸対策を総合的・重点的に講じます。

高生産農業の展開

意欲と能力ある農業の担い手の育成を推進するほか、地域農業の確立を目指して高生産農業の展開を図ります。

また今年からスタートする「水田農業確立対策事業」にあたっては、配分面積二百五十七㌶（うち一般転作二百十四・六㌶、他用途利用米四十二・四㌶）と非常に厳しい目標面積ですが、転作達成者助成八百万円を含め、一千百九万円を計上、農地の高度利用等による生産性の高い転作の定着化と地域の実情に即した集団、団地化を図っていきます。

農業生産基盤の整備は、高生産農業を展開するために極めて重要です。このため、農村総合整備モデル事業に八千五百万円を投入、ほ場条件の総合整備、農業用水の確保、農道の整備事業等を推進します。

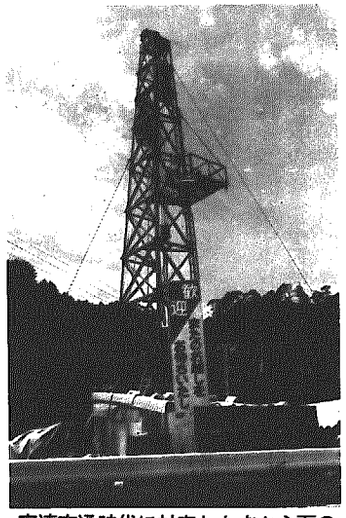
さらに北野地区に農業生産基盤整備事業を導入し、農道整備に二千三百万円余りを計上しました。

林業対策としては、活力ある森林資源を将来にわたって維持培養するために昭和五十五年度から継続して進めてきました林道岩室金池線の舗装は今年度で終了する予定です。さらに新規改良計画線として羽黒線（樋曽地内）を予定し、設計委託料として百二十万円を計上しました。また松くい虫駆除に百万円を投入するほか、しいたけ組合助成や民有林造成補助など地域林業の担い手育成や林業経営の安定

向上と林産物の安定的供給を図るための対策を講じます。

水産業の振興としては、くるまえびの放流事業を本年度も引き続き実施するなど、資源培養型漁業を目指した対策を総合的に進め、水産物の安定的供給を図るとともに漁業生産の増強と経営の安定向上など水産業の健全な発展を図ります。このため漁港の整備（村負担金六百万円）を強力に推進します。

農業共済事業については、吉田町、分水町、弥彦村とで合併推進委員会を設置し、昨年発足した広域組織「西蒲原郡農業共済組合」への六十四年三月末への加入合併を目指して検討を進めていきます。


高速交通時代に対応した点から面の観光地づくりを目指します。

商工業と観光の振興

観光資源の開発と中小企業の育成強化

恵まれた自然環境と優れた観光資源を生かし、高速交通時代に対応した誘客宣伝と観光資源の整備開発を積極的に推進します。また観光いわむろのイメージアップを図るため、ポスターの印刷をはじめ、高速バスへの広告宣伝や岩室温泉まつりの協賛などを実施するほか、観光基盤づくりとして観光案内板の整備や間瀬・田ノ浦公園取付道路の新設（五百万円）、丸小山公園の階段整備（百二十八万円）など積極的に進め明るい観光地づくりを展開します。また地域経済を担う中小企業の育成と活性化を図る対策を積極的に推進します。

暮らしと産業を支える基盤づくり

生活環境の整備

村民のみなさんから最も要望の多いのが村道整備です。そこで、本年度も生活基盤道路の整備に一億三千万円余りを投じ、重点的に整備します。これにより、村道舗装は約九十三キロ㍍、村道改良は六十九キロ㍍に達します。

また県道関係の整備推進については、五ケ浜巻線バイパスの負担金に三百八十九万円を計上、新潟寺泊線の岩室バイパスについても積極的に促進するよう関係機関に強く働きかけます。

都市計画指定事業については、本年度基本構想、基本計画をもとに都市計画及び用途地域策定原案の作成に着手し、村の均衡ある土地利用の発展を図ります。

環境保全では、治山・治水・海岸の維持保全事業を積極的に推進します。除雪対策については、自然的、社会的条件の厳しい雪に対し、総合的に対応してその拡充強化を図ります。

道路除雪や道路融雪施設を整備するなど雪に強いまちづくりを推進します。

特別会計

昭和62年度の特別会計予算をご紹介します。

〈会計別予算額〉

会計別	予算額	伸び率
国民健康保険	4億6,295万円	＋7.6%
老人保健	4億6,445万円	＋3.7%
水道事業	4億6,252万円	＋7.9%
農業共済	1億2,309万円	－0.3%
温泉集中加熱事業	4,556万円	－12.0%
土地取得	421万円	＋4.0%
合計	15億6,278万円	